

第42号

花咲きみのりて世の為立たむ

福島高校栄えよ永く

梅苑会報



福島県立福島高等学校



聖光学院高校 野球部監督
斎藤智也さん 高校34回(1982年)卒

INTERVIEW

聖光学院VS福高で 決勝戦を 戦いたいですね



監督がモットーとする「不動心」が選手達の練習を見守る。



監督がこれからの子供達に望むのは「一燈照隅」。自分が発光体となって灯を照らす人間になってほしい。「一隅を照らす」術を身につけて、光り輝いてスクラムを組んで、これからの日本を支えてほしい。と心から願う。

●野球漬けの高校時代

春の甲子園に2回、夏は7回出場し、甲子園常連校として着実な歩みを続けている聖光学院高校の野球部監督・斎藤智也監督は高校34回卒(同級に西武、広島で活躍した鈴木哲がいる)。だ。「高校生活3年間は、寝てもさめても野球、野球でした」と語る斎藤監督が入学した年に、加藤仁一郎先生が野球部監督として福高に赴任した。加藤監督は郡山北工を甲子園に出場させた実績をひっさげての赴任だったため、選手もOBも「甲子園を狙うぞ」という意識が「一気にあがった」という。「先生の野球の細かい戦略・戦術や、野球に向けた情熱はすごいものがありました。キャプテンもやらせていただいて、甲子園という

ものを意識して戦えた3年間は、大変な価値がありました。私がいま監督をやっているのは先生の影響が相当あります。加藤仁一郎先生ありきの3年間でした。高校の先生になりたい、野球の監督をやりたい、という気持ちは高校卒業とともに決まりました」

聖光学院高校では、まず野球部部長を13年間務めた。「若い時は私が強かったんで、監督をやりたいという気持ちと子供達をサポートするという本来の役目の間で悩み、消化不良が多かったと思います。それが20代、30代半ばと年を重ねることに少しずつ成長できたのを、学校側にも見ていただけたと思います」

1999年9月に監督に就任。3年間で結果を出せなければユニフォームを脱ぐ、という

条件があった。ここで生きた原点が高校時代の経験だった。

●天国から地獄を経験

「自分の高校3年間で甲子園に行く、というのは常識的には無理でした。でもそれをひっくり返そうとしたことは、日々勉強でした」そして、2001年夏に初の甲子園出場を果たす。ところが、この時が0-20の大敗だった。その経験が今日まで出場回数を伸ばしてきた原動力になったという。「まさに天国から地獄でした。自分も選手も失望しましたし、応援して下さっている周りや県民の皆さんに申し訳ないと思いました」という。その後、斎藤監督は子供達に、矛盾するような言葉を発するようにになった。「お前たちは、甲子園に行つてはいけな

い、行くべきではない」と言っただから、行くからには、これらどこまで訓練・修行を積んでいけるか?そして、もう一度宣言布告できるか?という問いかけがその真意だったという。

●「不動心」で壁を乗り越える

新たなスタートを誓われた聖光学院高は、その後、着実に甲子園出場を果たし、勝利を重ねている。しかし次の壁が生まれてきている。「強豪校に跳ね返される」という壁だ。近年は勝ち進んで全国制覇経験校に敗れる、ということが続いた。

「でもそれは「もっと強くなつてほしい」という何かの暗示だと思ふんですよ。私のモットーに「不動心」という言葉があります。強いチームと当たるのは

不運ではない。必然なんです。最初甲子園に行つて負けたのも必然、勝てるようになってきたのも必然。その都度そんな逆境や試験といった課題を乗り越えるしか術はないんです。そう考えられるようになると、周りのせいにしないで動じなくなる。昨年(夏の広陵戦勝利)、一度乗り越えられたので、これから次の段階になってくると思う」

逆境や試験を自分の問題として正面から受け止められれば、そのことに対応できる。これら子供達に高校3年間教え続けているのだという。

そして最後には「福島高校にも頑張っていたら、県の決勝戦で聖光学院と福島の決勝戦を戦うのが私の望みです」と嬉しい言葉をもらった。



川崎市長
阿部孝夫さん 高校14回(1962年)卒

INTERVIEW

故郷の山河と高校時代に 育まれた地域政策への思い 自治省、大学教授から市長へ



2月10日に銀座で行われた高校14回卒の同期会。福島・豊橋からも参加した

●高校時代は英語研究会

2月の週末の夕刻、東京・銀座の居酒屋で高校14回卒の同期会が開かれた。首都圏在住の参加者を中心に福島から5人、豊橋からも駆けつけ参加者39人。過去最多数の参加者を集めた。

その輪の中心に神奈川県・川崎市長の阿部孝夫市長がいた。

政令指定都市の市長は戦後同窓生では初めてのこと。阿部さんは県人会、同窓会の出席はもちろんのこと、故郷の福島市との交流には熱心で、母校愛も強い。

水保八木田橋より微湯街道を吾妻山方面に約6キロの農家の7人兄弟の末っ子として生まれ。水保中学から福高に入学したのは昭和34年のことだった。

「雨の日も雪の日も8キロの道を自転車通学、そのお陰で身体

が鍛えられたのでしょう。クラブは英語研究会に入り、確か英語弁論大会では東北大会に出場しましたね。もっとも同期の中西勉君が優秀で、そのカバン持ちみたいな形でしかけれど」

そして東京大学に進学し、法学部を卒業し自治省に入省した。

「過疎振興対策や地方自治のあり方に興味があり、自治省を選んだのです。地方都市福島、しかもその郊外で生まれ育ったことと無縁ではないでしょうね」

自治省では、念願の地域政策を担当し、「スパイスの効いた地域づくり」(昭和60年・第一法規出版)、「国際化と地域活性化」(昭和62年・ぎょうせい)、「日本が変わり地方が変わる」(昭和62年・良書普及会)、「新地方の時代を読む」(平成2年・学陽書房)などを

出版、地方自治のスペシャリストとして名が知られるようになった。

その間、在サンフランシスコ日本国領事館副領事、石川県総務部長、環境庁などにも出向している。

●北陸大学、高崎経済大学、法政大学で地域政策を講義

転機が訪れたのは平成4年、50歳を迎え自治省を退任、新設の北陸大学で地域政策学部の教授に就任した。「若い人たちに地方自治のあり方を指導すること、これは自分に向いているし、自分一人が自治省で頑張るより大きな可能性があると思つたのです」

北陸大学で4年教鞭をとり、後に高崎経済大学教授に就任、その後法政大学教授に迎えられる。北陸大学でも新入生を卒業させ、高崎でも同様でした。このまま大学の先生で終わるのかなと思つて

いたのですが……」

平成13年、自宅のある川崎市の市民団体から推されて市長選に出馬し当選。142万・川崎市民の顔となって走ってきた。

阿部さんは、川崎の「産品」として文化を発信、音楽のまち・かわさき。の浸透に奔走してきた功績は高く評価されている。

●しゃべり方が役人、教員、市長では全然違う

この4月からでも、新百合ヶ丘に日本初の映画単科大学である日本映画大学が開学。9月には向ヶ丘遊園跡地にドラえもんなどのキャラクターを生み出した藤子・F・不二雄ミュージアムのオープン。11月末には世界三大ジャズフェスタの一つのモントルー・ジャズフェスティバルが川崎市内で開かれる。

銀座での同期会では、こんな挨拶

もしている。

「しゃべり方を私の人生で3度変える必要がありました。自治省にいる時は、慎重に言葉を選んで、なるべくしゃべらない。決して脱線してはいけません。大学の先生の場合は、ひとコマの授業が終わるまでしゃべり続けること。時には脱線し、笑いもとらなければ学生は居眠りしてしまう。市長になると市民の心をつかみ、議員の賛同も得なくてはならない。ひと言ひと言が重い。同窓会や県人会では、いつもほっとするんですよ」

趣味はカラオケで十八番は五木ひろしや川中みゆきの演歌だという。「私の地方自治を専門とする仕事は、福島の山と川、そして高校時代に育まれたのです」と言い残すと、同期生と肩を組んで二次会会場に向かった。

平成23年度 一般会計予算書 22年9月1日～23年8月31日

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	3,696,888	
(2)入会金	945,000	卒業生 (315名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	卒業生 (315名×1,000円) 会員 (約1,500名×2,000円)
(4)雑収入	112	預金利息等
(5)繰入金	0	
合 計	7,957,000	

2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
1.事業費	3,880,000	
(1)総会費	500,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	1,200,000	
(1)会議費	350,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	100,000	振り込み手数料
(3)交際費	200,000	各回同期会、離別、その他
(4)慶弔費	100,000	
(5)通信費	250,000	切手、葉書代
(6)旅 費	150,000	関東梅苑会、みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	
3.梅苑会館運営費	500,000	
維持管理費	500,000	梅苑会館補修費積み立て
4.会員名簿管理費	850,000	平成22年度分会員名簿管理費
5.予備費	1,527,000	
合 計	7,957,000	

項目間の流用をお認め願います。

平成23年度母校後援会費予算書 22年9月1日～23年8月31日

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	6,003,054	
(2)会費	1,315,000	卒業生 (315名×1,000円) 会員 (約1,000名×1,000円)
(4)雑収入	946	利子等
合 計	7,319,000	

2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	母校への助成
(2)部活動助成	200,000	全国大会出場への助成金
(3)予備費	5,919,000	
合 計	7,319,000	

項目間の流用をお認め願います。

平成23年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書 (特別会計)

1.収入の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)繰越金	1,500,257	
(2)積立金	500,000	同窓会一般会計より
(3)雑収入	743	利子等
合 計	2,001,000	

2.支出の部 (単位:円)		
項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2)次期繰越金	2,001,000	
合 計	2,001,000	

平成22年度 一般会計決算書 21年9月1日～22年8月31日

収入決算額 8,435,529円
支出決算額 4,738,641円
次年度へ繰越額 3,696,888円

1.収入の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	4,203,203	4,203,203	
(2)入会金	957,000	948,000	卒業生 (316名×3,000円)
(3)年会費	3,319,000	3,283,210	卒業生(316名×1,000円)、 会員(1,226名)
(4)雑収入	797	1,116	預金利息、図書寄贈費残金等
(5)繰入金	0	0	
合 計	8,480,000	8,435,529	

2.支出の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,880,000	2,926,147	
(1)総会費	500,000	360,040	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	3,000,000	2,290,757	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	275,350	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	1,200,000	472,494	
(1)会議費	350,000	278,965	第2、3、1回役員会
(2)事務諸費	100,000	10,400	振り込み手数料
(3)交際費	200,000	40,000	関東・みやぎ梅苑会参加費
(4)慶弔費	100,000	13,744	学校職員葬儀
(5)通信費	250,000	69,895	往復葉書、切手
(6)旅 費	150,000	59,490	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	0	
3.梅苑会館運営費	500,000	500,000	
維持管理費	500,000	500,000	特別会計へ
4.会員名簿管理費	850,000	840,000	平成21年度分会員名簿管理費
5.予備費	2,050,000	0	
合 計	8,480,000	4,738,641	

平成22年度 母校後援会費決算書 21年9月1日～22年8月31日

収入決算額 6,513,054円
支出決算額 510,000円
次年度へ繰越額 6,003,054円

1.収入の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	5,010,625	5,010,625	
(2)会費	1,319,000	1,501,000	卒業生 (314名×1,000円) 会員 (793名)
(3)雑収入	375	1,429	預金利息
合 計	6,330,000	6,513,054	

2.支出の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	420,000	110周年記念事業 (CD作成)
(2)部活動助成	200,000	90,000	"全国大会出場への助成金" (バスケットボール部、陸上、水泳、剣道部、新保、花巻)
(3)予備費	4,930,000	0	
合 計	6,330,000	510,000	

平成22年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書 (特別会計)

収入決算額 1,500,257円
支出決算額 0円
次年度へ繰越額 1,500,257円

1.収入の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰り越し	1,000,000	1,000,000	
(2)積み立て	500,000	500,000	22年度分
(3)雑収入	500	257	預金利息
合 計	1,500,500	1,500,257	

2.支出の部 (単位:円)			
項目	予算額	決算額	摘要
(1)修繕費	1,500,500	0	
合 計	1,500,500	0	

平成22年11月26日開催の同窓会総会が無事、盛会裡に終了でき、誠に有難うございました。これは同窓会役員および会員の皆様、校長先生はじめ母校教職員の方々のご支援ご協力の賜物と、深く感謝申し上げる次第であります。

昨年度の同窓会行事をご報告申し上げます。

平成22年3月1日、福島高校卒業式が挙行され、同窓会会長として祝辞を述べる光栄に浴しました。卒業生の大学進学は、東大1名、東北大25名、福島大学30名、福島県医大14名、早稲田大19名、明治大17名、中央大16名、法政大15名など大変優秀でした。

同年4月8日に入学式が挙行され、優秀な新入生320名が入学しました。

新井田前校長は3月30日に退任され、新校長に富田昭夫先生が就任されました。

同年5月14日、関東梅苑会定期総会が東京グリーンパレスで開催され出席しました。

大先輩の佐藤庄市郎先生(元最高裁判事 福中39回卒)、砂子田隆先生(元消防庁長官 福中44回卒)もお元気に出席されました。女子同窓生も出席され大盛会でした。

同年9月16日には、みやぎ梅苑会定期総会がハーネス仙台で開催され、私の同期の会員が今野前会長はじめ数名出席され、旧交を温めました。

同年11月26日、福島高校同窓会総会を、福島グリーンパレスで開催し、大勢の会員の皆様のご参加をいただき盛大に開催できましたことに、厚く御礼を申し上げます。

在校生によるスーパーサイエンスハイスクール活動の研究報告がありました。素晴らしい研究については大変な驚きと賞賛の拍手がありました。

実は私達、福高三年生のとき、吾妻小富士から白煙が上がった、当時化学部(顧問大槻進先生)に所属しており、男沼、女沼、塩ノ川の水質調査をするこ

ととなり、調査器具を山岳部に運搬してもらい土湯温泉から出発して、途中、川や沼の水を採取して、酸性度などの調査をして、ぬる湯温泉に降りたことがあり、その調査報告費は当時、福島県の科学研究費に浴したことが思い出されました。

今後の同窓会の活動について、さらなる発展と母校の後輩のために役立つような活動をして参りたいと考えております。

卒業年度毎の同期会、職場や地域毎の同窓会支部の結成、拡充を図りたいと考えております。

役員(副会長、常任理事、理事幹事)についても、拡充、若返りを図りたいと考えております。何卒ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

私も微力ながら同窓会の組織と事業の拡大を図って参りたいと考えておりますので、同窓会役員および会員の皆様には、何卒、同窓会の活動になお一層のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



同窓会会長
今井吉之
(高校第5回卒)

ごあいさつ

福高 同窓会総会

平成22年度「福高同窓会総会」が11月26日、午後六時からホテル福島グリーンパレスで開催され、二百人を超える同窓生たちが集いました。総会に先立って、「SSH生徒研究発表」が行われ、本校SSH部に所属する生徒たちの研究活動の発表がありました。総会の後の懇親会では、随所で旧交を温める姿が見られ、最後に校歌を全員で斉唱し、今年度の総会も盛大に幕を閉じました。



関東梅苑会だより

5月20日(金)夕刻、関東地区総会・合同同期会開催 首都圏卒業生は参集を！ 去年は初の女子大生司会実現

五十嵐大典、加藤仁一郎、桑原茂各先生が上京予定



会場には来賓も含め 180 人が参集

平成23年度の関東梅苑会総会・合同同期会は、来たる5月20日(金)の夕刻6時半より東京都千代田区二番町の東京グリーンパレスで行われます。(7ページ要項参照)

首都圏在住の卒業生で組織する関東梅苑会では、毎年この時期に合同同期会を開き、会員相互の親睦を深める会を催しています。その際に母校恩師をお招きする合同同期会形式を行っています。

今年は、在職通算27年に及ぶ戦後の福高の歴史を限なく知り、多くの生徒に親しまれてきた五十嵐大典先生、野球部の監督を歴任した加藤仁一郎先生、囲碁部創設などに尽力なされた



司会の玉根幸恵さんと亀田栄一さん(高校45回卒)と参加の女子学生

桑原茂先生をお招きすることになりました。

昨年の合同同期会(実行委員長・高校25回卒・渡邊誠さん)は、マザーテレサの映画で世界的に有名な千葉茂樹さん(高校4回卒)と「剣岳 点の記」の共同脚本とプロデューサーを務めた菊池淳夫さん(東映・製作部・高校34回卒)の映像を交えたミニ講演が行われました。

また、初めて現役女子学生である玉根幸恵さん(高校61回卒)が司会進行を担当、受付等も学生が駆け付けてくれました。

男女共学となって7年が経過し、社会人の女性参加者とともに現役学生の参加者も増えていきます。

近年は、若い世代の台頭とともに、旧制中学やかつて役員を務めた先輩方の後押しも重なり、年々充実した合同同期会が開催されています。卒業生であれば

どなたでも参加OKです。

【平成23年度、関東梅苑会総会・同期会実行委員会・幹事学年・高校16回、26回、36回、46回・関東梅苑会会長・小松恭一】

ご招待の先生の横顔

【五十嵐大典先生】
昭和25年に大学卒業と同時に赴任。以後昭和48年まで国語・古典・漢文を担当した。担任は高校5回卒を皮きりに高校24回卒を卒業させ福女に転任。昭和50年・55年までは再び福高に教頭先生として赴任した。その後石川高校、喜多方高校の校長を務め定年退職。

卒業年次は幅広く、先生ご自身が福高の戦後の歴史そのものでもある。しかも型にはまらない教育を生活信条に人間味溢れる姿は多くの卒業生の目に焼き付いている。

現在も帰省の折に先生を訪ねる人も少なくないほど長い福高史の名物先生に数えられるお一人でもある。

【加藤仁一郎先生】

高校15回卒。高校時代は一時野球部に所属。福島大学文学部に進学後に本格的に準硬式の野球部に所属し、教員と甲子園に行くことを目標に保健体育の教員となることを目標とする。

猪苗代高校を経て郡山北工高に赴任し、昭和53年夏の甲子園出場を果たし1回戦も勝利した監督でもある。そして昭和54年に福高に赴任し野球部監督を務め鈴木哲さん(西武・広島を経て現在西武ライオンズスカウト)や斎藤智也さん(2ページ参照)を育てる。昭和63年に二本松工高に転任したが平成9年から16年まで福高に再び赴任、ゴルフ部顧問などを務めて定年。福高の甲子園出場に夢を馳せ、野球部の動向を温かく見守り支援し続けている。

【桑原茂先生】

高校15回卒。高校時代は合唱部に所属、福島大学卒業後物理教員となって川口高校、小野高校を経て昭和52年から62年まで福高に物理の教員として赴任。卓球部顧問、合唱部顧問を務める。また囲碁部創設の生徒の声を受けて囲碁部顧問も務めた。32回卒、37回卒の担任を務め、その後福島南高、福島北高に赴任し定年退職。

「今度御一緒する同期の加藤先生に頼まれ野球部顧問も務めたことあります」というほど生徒のクラブ活動を熱心に指導した。

加藤、桑原両先生は五十嵐先生の教え子でもある。

平成23年関東梅苑会総会・合同同期会開催要項

日時 平成23年5月20日(金) 18時半

場所 千代田区二番町・東京グリーンパレス
(地下鉄有楽町線麹町駅徒歩1分・総武線市ヶ谷駅徒歩8分。日本テレビ麹町旧本社裏・イスラエル大使館前)

会費 8千円
(会場費7千円・年会費千円)
学生は千円、女性社会人2千円

会費等は同封の関東梅苑会用振り込み用紙で5月6日まで。当日払い可ですが、名札等の準備、当日混雑が予想され、事前振込みを。

詳細は03-3462-1225か関東梅苑会HP参照<http://www.kantobaienkai.ne.jp>

受験勉強中に芝居の魅力を知る B作さんに続けと俳優の道へ

中脇樹人さん(高校36回卒)

俳優で活躍しているのは東京ヴォードヴィルショーの佐藤B作さん(高校19回卒)がいるが、今回は高校36回卒の中脇樹人さんを紹介しよう。

中脇さんは、テレビ・映画では大役はこなしていないが、テレビでは「相棒」シリーズ、「特命係長・只野仁」や2時間ドラマ、大河ドラマ「龍馬伝」、映画では「クライマーズハイ」、『DEATH NOTE』など多くの作品に出演している。かつてネオ歌舞伎の言葉を創出した人

気劇団「花組芝居」の俳優として活躍。その演技力には定評がある。

附属中から福高に進学し、山岳部に所属していた。芝居に興味を持ったのは高校3年の受験も押し迫った時期だった。

「同じクラスの友人から薦められ、NHKテレビの舞台中継の『夢の遊眠社』の『小指の思ひ出』を見たのがきっかけでした。それまで特に芝居に興味を持っていたわけではなかったのです。テレビで見たその芝居は、



テンポ、セリフの面白さ、役者が汗を流し、唾を飛ばしながら吐く言葉、それはもうカルチャーショックでした」

大学は宇都宮大学農学部に進学、入学すると演劇研究会に入って活動を始めた。

「別役実さんの芝居とか上演しながら、どんどん芝居の面白さにのめり込んでいった。専攻は畜産学科、食品会社や公務員になる同級生が多い中、自分の中で芝居をし続けたいというのがあったのでしようね」

卒業後、東京の企画会社に就職したが、しばらくするとある演劇雑誌のオーディションの記事が目が釘付けになった。

「『花組芝居』が創設間もない時期で、役者を広く募っていた時期だったのです。オーディションに合格し、その後劇団員になったわけです」

●花形舞台役者から映像の世界へ

その芝居の魅力を言葉で語ってもらおうと「いろいろな方向にアンテナを張り巡らせ、やり直しのきかない一瞬一瞬の連続のなかの緊張感と終わった後の開放感、この落差がたまりません。舞台の上に立ち、客席のお客様をみるとアドレナリンが大量に放出されてしまいます。これが公演期間中毎日来るのです。一度味わってしまったとやめられません」と返ってきた。

平成元年に入団、平成14年まで同劇団に所属し、全国公演や海外公演もこなしたチケットは簡単に取れないほどの人気劇団になっていく原動力ともなった。

「映像に興味が出てきた」と同劇団を退団したのは30代の半ばだった。

「高校時代、佐藤B作さんがラジオ福島に出演している時、

関東梅苑会公式サイト紹介 <http://www.kantobaienkai.ne.jp>

本部梅苑会・関東梅苑会最新ニュースのほか、同期会情報、同窓生投稿原稿、ゴルフ大会開催情報と成績、同窓生紹介などがあります。「関東梅苑会」の検索でトップに表示されます。これまでの関東地区OB紹介は、元西武ライオンズ鈴木哲さん、千葉大学長・齋藤康さん、朝日新聞・星浩さんが紹介されています。また「梅苑会報」のバックナンバーも当ホームページで全文を閲覧可能。
(HP管理：高校31回卒・島田久、HP/会報取材担当：高校24回卒・油井富雄)

みやぎ梅苑会だより

広げよう！ 親睦と交流の輪

平成22年度みやぎ梅苑会総会・
懇親会を開催

みやぎ梅苑会は、9月16日仙台市青葉区のハーネル仙台で平成22年度みやぎ梅苑会総会・懇親会を今井吉之同窓会長（高5回卒）、石田正彦事務局次長（高30回卒）、油井富雄関東梅苑会事務局員（高24回卒）、母校から深谷茂樹教頭を来賓としてお迎えし開催しました。

会には、橋本俊一理事（高21回卒）の司会ではじまり、物故会員へのご冥福を悼み、謹んで黙祷を行い、次に歌川和夫会長（高17回卒）から「本日は老いも若きも、同窓生としてご参加いただき感謝申し上げます。今後、福島本部、関東梅苑会の協力も得て、親睦と交流の輪を一層広めていきたい。そのためにはインターネットを使ったホームページ、梅苑会報などの充実が大切」と挨拶を受けました。続いて今井会長や深谷教頭から同窓会の動向、文化・体育両面での生徒の活躍状況を交えた

来賓挨拶をいただき、総会の議事を事務局提案どおり承認し、森川利夫副会長（高6回卒）の発声で懇親会に入りました。

懇親会では、司会の橋本理事からの指名で関東梅苑会の活動報告を油井さん、元室蘭工大教授で初参加の嶋影和宣さん（高11回卒）、東北学院大博物館長の辻秀人さん（高21回卒）、松島の歴史・文化の継承と創造を訴える西村晃一さん（高28回卒）、東北の自然環境保全をリードする小林香さん（高29回卒）、東邦銀行を代表して峯和彦さん（高32回卒）、ホームページで知り一関から初参加した岩手銀行の鈴木修さん（高34回卒）、ハングライダーでの競技を楽しむ菅野剛広さん（高34回卒）、最年長の渡辺富也さん（中43回卒）らのテーブルスピーチが次々と続き、大いに会場が盛り上がり、交流の輪が広まりました。

西村晃一理事の音頭で校歌を合唱し、千葉正顧問（高1回卒）が「来年も元気で顔を合わせましょう」と三本で締め、佐藤隆副会長（高15回卒）の「来

年はぜひ各学年の同期会をこの機会に併せて開催して頂きたい」との閉会の辞でお開きとなり、ようやく涼しさが感じられるようになったビル街に出、「福島高校来えよ永く、そして私も」と口ずさみながら帰路に着きました。

見事なハーモニーで 校歌を披露

「第5回土井晩翠先生が
作詞した校歌をいっしょに
歌いましょうの会」に参加

「歌いましょうの会」は、仙台出身の土井晩翠先生を偲び、命日に当たる10月19日前後の日曜日、2年に1度同先生の母校で開催されています。同先生が作詞した校歌は、国内はもとより、中国・韓国・ブラジル・ロシア（樺太庁立大泊中学校）など海外を含め200曲以上と言われています。その資料は、同先生の母校である仙台市立立町小学校に収集されており、学校の休日を除き、自由に100校近くの校歌を聴くことができます。

平成22年度の「歌いましょうの会」は10月17日午後、同校体

育館で青森・岩手・福島各県の学校を含む16校が参加し開催されました。福島県立安達高校も本部・仙台支部同窓会員で参加しました。

みやぎ梅苑会は、歌川和夫会長（高17回卒）はじめ11人で参加し、合唱部OBの橋本俊一君（高21回卒）が母校と校歌誕生の由来を紹介後、西村晃一君（高28回卒）らのリードで校歌1番、2番、5番を披露しました。男性合唱部OB中心のメンバーによる迫力満点のハーモニーで400名を超す観客を魅了し、大きな拍手を受けました。校歌は母校の理念の絆であり、青春の思い出がいっぱい詰まった街話であります。「花咲きみのりて世のため立たむ 福島高校来えよ永く」と常に口ずさみたいと思います。



「第5回土井晩翠先生が作詞した校歌をいっしょに歌いましょうの会」の様子

ところで、土井晩翠先生の作詞した校歌で、母校の資料室に届け出のある福島県内の学校は、学校名の変更があると思います。が、次の12校であります。

いわき市立勿来第二小学校
いわき市立勿来第一中学校
郡山市立熱海小学校
双葉郡長塚村国民学校（現双葉小学校）
福島県立安達高校・会津農林高校・磐城桜ヶ丘高校・岩瀬農業高校・平工業高校・双葉高校・福島高校
会津若松市竹田総合病院院歌



福島高等学校長
富田 昭夫

創業と守成

同窓会の皆様には、母校の教育振興と在校生の激励のために、平素から特段のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。

百十二年の歴史と伝統を誇る本校に参りまして、喜びの反面浅学非才の肩にずしりと重いものを感じている日々を過ごしております。転任して以来、常に私の脳裏にあるものを書かせていただきます。

中国唐王朝の第二代皇帝太宗は、聡明なうえに決断力に富み、見識度量が余人に超越していたと言われます。父の初代皇帝高祖を助けて唐王朝を樹立し、のち父から位を譲られて国家経営に意を用いた結果、天下は泰平に治まり、英主としての評判が高かった皇帝だったと言われます。太宗はある日、側近の房玄齡と魏徴の二人に向かつて、「事業を始めるのと、すでにできあがった事業を守って失わないようにするのは、どちらが困難であろうか？」と尋ねまし

た。房玄齡は無から有を生み出すのだから当然事業を始める方が難しいと答え、魏徴は過去のいくつもの王朝が能力の乏しい為政者によって守りきれずに倒れたように、守るといふことの方が難しいと答えたと言うことでした。

太宗は父高祖を助け創業にも力を尽くすとともに、その後を受け、広く人材を求め、唐王朝三百年の基礎を固めたのですから、その両方の苦勞を味わったと言えます。その二つの意見に対して太宗は、自分とともに創業で苦勞した者はそう言うであらうし、自分が皇帝の位についてから治世で苦勞している者はそのことを主張するであらう。

だがすでに創業の時代は終わり、その困難は過去のものとなった。今は太平になった世の中を守るべき時代であり、困難の真っ最中である。よって心して守りの困難に打ち勝つべき時であると言ったそうです。

伝統校であればあるほど、同

窓会の皆様が築きあげられた伝統を守り抜くことの困難を覚えております。

本校教育の根幹は「梅章のおしえ」であります。使命感、倫理観をもった教職員の協働体制のもと、豊かな知性・教養、健やかにして自律した個性をもつ調和のとれた人間の育成を目指すとともに、生徒一人ひとりの自己実現を支援し、次世代リーダーとして活躍できる人材を育成すべく日々教育活動に全力で取り組んでおります。校舎施設等は、老朽と改築を繰り返していくものでありますが、真の学校の遺産とは、福島高校で学ぶ者一人ひとりが、校舎にしみ込ませてきた「逞しい真摯な生きざま」だと思えます。母校は心のふるさとであります。ふるさとを大切にすることは自分大切にすることにつながるものであると思います。同窓会の益々の発展を祈念いたします。

部活動成績

運動部

バスケットボール部

- 福島県高等学校体育大会 県大会3位
- 福島県選抜高校バスケットボール大会3位

ハンドボール部

- 福島県高等学校体育大会 県大会3位
- 県総合体育大会 県大会3位

陸上部

- 福島県高等学校体育大会 県大会3位（男子B100m）
- 県総合体育大会 県大会3位（男子B100m）

ソフトテニス部

- ハイスchoolジャパンカップ大会 県大会3位
- 福島県高等学校体育大会 県大会 団体2位（東北大会出場）
個人3位（東北大会、全国大会出場）
- 福島県高等学校ソフトテニス選手権大会 県大会 団体2位

山岳部

- 県総合体育大会 優秀パーティー（福島高校A・福島高校B）
- 県総合体育大会 山岳競技クライミング部門 女子3位
- 福島県高等学校体育大会 県大会優秀パーティー（福島高校A）

剣道部

- 福島県高等学校体育大会 男子団体3位

アーチェリー部

- 福島県高等学校体育大会 団体 2位
男子個人 3位
- 福島県高等学校新人体育大会 団体 2位
男子個人 3位

文化部

合唱部

- NHK全国学校音楽コンクール福島県大会 最優秀賞

囲碁部

- 全国高等学校囲碁選手権大会福島県大会 男子団体戦 準優勝（福島高校A）
- 福島県高校囲碁新人大会 男子個人戦B 優勝
- 東北地区高等学校囲碁選手権大会 級位者戦の部 男子1位

特殊部

梅章委員会

- 全国高等学校総合文化祭 新聞専門部 年間紙面審査 最優秀賞

SS部

- プラズマ・核融合学会による 高校生シンポジウム 最優秀賞
- 野口英世賞 高校共同研究 最優秀賞
- 日本学生科学賞 福島県審査 最優秀賞

寄贈図書紹介 (平成22年1月～12月)

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者(敬称略)
22・04・05	明日を拓く人間力と創造力	末松安晴	福島S・H	22・04・21	どうする！東京	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	考えるコンテンツ「スマーティ」	本位田真一等	福島S・H	22・04・21	警察官像が見た「日本の警察」	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	バイオ・情報・最先端	藤山秋次等	福島S・H	22・04・21	危うしニッポン！ズバリの申す	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	デジタルは変える放送と教育	菅根豊登等	福島S・H	22・04・21	「国会」の舞台裏	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	e-Japan宣言	菅根豊登等	福島S・H	22・04・21	日本よ国家たれ	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	石橋なコンピュータの壁を越える	佐藤真一、斎藤淳	福島S・H	22・04・21	憲法、危機！	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	情報とセキュリティと法制度	東倉洋一等	福島S・H	22・04・21	政治家は素な商売じゃない	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	ようこそ量子	根本善紀、池谷瑞純	福島S・H	22・04・21	拉致問題	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	インターネットが電話になる	山田茂樹等	福島S・H	22・04・21	平沢勝栄・全人像	佐野忠男	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	ロボットのあへそ	稲垣哲也等	福島S・H	22・04・21	代議士のつくれ方	朴 基熙	平沢勝栄 (敬称略)
22・04・05	ユビキタス社会のキーテクノロジー	東倉洋一等	福島S・H	22・05・10	高校生のための東大授業ライブ 純情編	東京大学教養学部	福島進路指導部
22・04・05	ITセキュリティカフェ	岡田仁志	福島S・H	22・05・10	高校生のための東大授業ライブ 熱血編	東京大学教養学部	福島進路指導部
22・04・05	からくりインターネット	相澤彰子等	国立情報研究所	22・05・10	携帯電話は人工知能の夢を見るか？	溝口文雄	東京理科大学
22・04・05	生存の条件	加藤子財団		22・05・10	夏の働き方・効かせ方	寺田弘	東京理科大学
22・04・05	はるかな星をめざして	黒川浩	フェリス学院大学	22・05・10	初学者のための民法学習ガイド	山野目章夫	山野目章夫 (敬称略)
22・04・05	ドラゴン桜 1、2	三田紀房	福島旧職員	22・05・10	季刊 東北学 第23号	東北文化研究センター	福島社会科
22・04・05	謝罪の研究	大淵慶一	発行所	22・05・10	まんだら Vol.43 (東北文化友の会会報)	東北文化友の会	福島社会科
22・04・05	東北人の肖像像	三浦秀一・編	発行所	22・06・10	新キリスト教ガイドブック	関栄二	関栄二 (敬称略)
22・04・05	知と愛のハーモニー 1～6	末松安晴	国立情報研究所	22・06・10	キリスト教ナビ	関栄二	関栄二 (敬称略)
22・04・05	徳井啓明作品集	徳井啓明	徳井啓明 (敬称略)	22・06・10	解説イエス・キリスト	関栄二	関栄二 (敬称略)
22・04・05	磐城山地方の伝説 上、下	小松山六郎	磐城山噴火記念館	22・06・10	星座に見る福音	関栄二	関栄二 (敬称略)
22・04・05	磐城山「おどろき」の伝説	小松山六郎 等	磐城山噴火記念館	22・06・10	クリスマスをあなたに	関栄二	関栄二 (敬称略)
22・04・05	磐城山に強くなる本	福島県火山学習会		22・07・05	季刊 東北学 第24号	東北文化研究センター	東北芸術工科大学
22・04・05	磐城山の自然		磐城山噴火記念館	22・07・05	季刊 東北学 第13号～19号	東北文化研究センター	東北芸術工科大学
22・04・05	会津磐城山		磐城山噴火記念館	22・07・05	まんだら Vol.44 (東北文化友の会会報)	東北文化研究センター	東北芸術工科大学
22・04・07	日本文化を英語で紹介する事典	杉浦洋一等	福島英語科	22・08・06	NHK英の巻 第2期、第5期	NHK出版	福島福祉
22・04・07	英語で日本の全てを紹介する事典	向井京子	福島英語科	22・08・06	福島県の合戦	いさ出版	福島福祉
22・04・07	新TOEICテストまるごと模試600問	岩村圭南等	福島英語科	22・09・21	エッセイ集 風事を訪ねて	斎藤健次郎	斎藤健次郎 (敬称略)
22・04・07	新TOEICテスト全パート教本	Robert Hike 等	福島英語科	22・09・21	まねかざる書 他 45冊	アガサ・クリスティ	「古本市」より
22・04・07	英検準1級二次試験対策予想問題	旺文社	福島英語科	22・09・21	僕が出会った作家と作品	五木寛之	福島福祉 (福島職員)
22・04・07	Sazae-san 1～6	長谷川 剛子	福島英語科	22・10・20	世界を「南極」にしよう	柴田鉄治	柴田鉄治 (敬称略)
22・04・07	KOBO. the U Rascal 1-3	植田まさし	福島英語科	22・10・20	国境なき大陸 南極	柴田鉄治	柴田鉄治 (敬称略)
22・04・07	Kitchen Table Talk	KAY HETHERLY	福島英語科	22・11・12	ニッポンの嵐	国土交通省	文部科学省
22・04・07	To Japan, with Love	Adiya Dixon	福島英語科	22・11・12	季刊 東北学 第25号	東北文化研究センター	福島社会科
22・04・07	Takes and Mistakes	Kate Elwood	福島英語科	22・11・12	まんだら Vol.44 (東北文化友の会会報)	東北文化友の会	福島社会科
22・04・21	この日本をどうする	平沢勝栄	平沢勝栄 (敬称略)	22・12・16	浅田宗伯	油井富雄	油井富雄 (敬称略)

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成22年度 同窓会役員

会長	今井吉之	高5回	理事	久家孝夫	高13回
副会長	渡邉又夫	高5回	理事	林 恭良	高14回
副会長	菅野泰典	高6回	理事	岡崎勇三郎	高15回
副会長	八巻完二	高10回	理事	今野金満	高15回
副会長	川崎真二	高11回	理事	富田健一郎	高16回
副会長	内池 浩	高14回	理事	池田正昭※	高17回
副会長	小松恭三※	高14回	理事	勢島 昇	高18回
副会長	渡邉健寿	高17回	理事	本多純一郎	高19回
副会長	歌川和夫※	高17回	理事	花井宣明	高20回
副会長	片平憲市	高19回	理事	網代智盛	高21回
常任理事	佐藤記男	高11回	理事	佐藤信雄	高21回
常任理事	齋藤 登	高12回	理事	尾形克彦	高22回
常任理事	永倉禮司	高15回	理事	芳賀 裕	高22回
常任理事	二階堂晋一※	高16回	理事	黒澤信雄	高22回
常任理事	久米允彦※	高16回	理事	大野順道※	高22回
常任理事	長谷川 好美※	高17回	理事	曾野日出喜	高23回
常任理事	山岸 清※	高18回	理事	加藤典義	高23回
常任理事	佐久間政文※	高19回	理事	村上正文	高23回
常任理事	本多修二	高20回	理事	江口 淳※	高23回
監事	鈴木芳喜	高19回	理事	渡辺 久	高25回
監事	松野孝司※	高20回	理事	後藤忠久	高26回
理事	斎藤 浩	高6回	理事	土屋牧雄	高26回
理事	八子英器	高8回	理事	阿部芳和※	高27回
理事	倉島忠夫	高9回	理事	片平 淳※	高28回
理事	羽田 登	高9回	理事	八子直樹	高31回
理事	角田征雄	高12回	理事	藤本雄司	高33回
理事	磯貝健郎	高13回	理事	吉成健二	高33回
理事	三瓶昌久	高13回			

※は今年度からの新役員

平成22年度 同窓会事務局員

駒田秀孝	高15回	丹治 崇	高36回
松浦健二	高18回	渡邉兼綱	高36回
高橋朝晴	高20回	斎藤 美	高37回
鈴木芳明	高22回	大河内孝志	高38回
須藤 達	高26回	本多信弥	高40回
朽木 隆	高27回	緑川悟史	高40回
石田正彦	高30回	渡辺洋生	高43回
神田亮一	高32回	菅野祐智	高44回
目々澤光一	高36回	加藤 明	高47回
佐藤富浩	高36回	須田雅人	高51回

平成22年度 同窓会幹事

菅波拓馬	1組	佐藤 峻	5組
三浦正輝	2組	矢戸佑斗	6組
服部卓磨	3組	岡崎史博	7組
武氣昂平	4組	佐藤汰	8組

進学展望

進路希望の動向

平成二十三年三月の卒業生（六十三回卒業生）は、本校共学化後、第六期の卒業生となる。共学化以降本校の校風にもさまざまな変化が見られたが、最も顕著な変化は学習に対するより一層の真摯な取り組みの姿勢の現れと社会状況の変化に伴う生徒の進路希望の変化である。

共学化以降、学習成績は他校と比較して年度による変動はややあるものの確実に向上してきており、その成果を進学実績に著実に結びつけてきている。また、大学や学部・学科への志望が、国公立大学志向および医学部・看護学部・保健学科志望者の増加など男子校時代とは異なってきたり、生徒や生徒を取り巻く環境の変化に対応した適切かつきめ細かな進路指導が必要となってきた。

具体的な変化としては、社会動向を反映して資格取得を前提とするここ数年の実学指向が今年も強まり、前述の学部・学科

以外に工学部や教育学部など将来の職業に直結するような資格を取得できる学部・学科への志向が一層強まった。そして、このような進路希望の動向は今後もしばらくは続くものとみられる。

ここ数年のこうした動きを受けて、平成二十二年度の本校の取り組みとして、二年生を対象とした「医療系学部進学志望者に対する特別指導」など福島県の「学力向上推進プラン」などを活用したいくつもの事業を実施した。さらに、今年度も最近の卒業生や多くの同窓生にもさまざまな形でご支援をいただいた。

入試出願状況 (試験の延べ数)

項	大学名	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
国公立大	北海道大	9	11	13	18
	岩手大	5	8	7	5
	東北大	87	72	111	69
	山形大	20	18	20	17
	福島大	61	85	56	45
	茨城大	9	5	7	11
	筑波大	31	16	26	18
	宇都宮大	6	7	12	8
	埼玉大	26	26	16	26
	千葉大	31	24	33	27
	東京大	12	7	14	9
	東京外語大	9	6	6	11
	東京工業大	11	3	0	1
	一橋大	8	1	2	2
	横浜国立大	22	16	4	12
	新潟大	21	24	24	28
	京都大	5	2	1	8
	その他の	60	45	59	78
	県立医科大	42	61	43	38
	県立会津大	0	1	2	4
	高崎経済大	2	7	1	1
	その他の	32	27	9	35
私立大	東北学院大	4	12	9	6
	青山学院大	44	35	35	27
	慶応義塾大	28	24	22	19
	上智大	6	5	3	12
	中央大	52	57	89	74
	東京理科大	32	40	23	37
	日本大	14	17	13	29
	法政大	42	40	52	55
	明治大	90	77	76	113
	立教大	55	29	38	29
	早稲田大	77	67	118	87
	その他の	213	211	253	257
国立大学合計		433	376	393	421
公立大学合計		76	96	78	61
私立大学合計		657	614	745	863
総計		1,166	1,086	1,216	1,345

大学合格者数 (過年度卒を含む)

項		平成22年	平成21年	平成20年	平成19年
国公立大	北海道大	3	6	3	7
	岩手大	3	1	2	4
	東北大	33	47	34	44
	山形大	10	6	5	7
	福島大	35	21	18	16
	茨城大	2	3	5	6
	筑波大	7	12	10	8
	宇都宮大	4	7	4	6
	埼玉大	11	6	4	11
	千葉大	5	10	10	11
	東京大	4	4	4	8
	東京外語大	0	3	3	0
	東京工業大	3	0	0	2
	一橋大	2	0	1	2
私立大	横浜国立大	4	0	7	8
	新潟大	10	8	11	12
	京都大	1	2	2	5
	その他の	9	19	28	21
	県立医科大	16	17	18	20
	高崎経済大	2	0	1	0
	その他の	12	6	15	9
	小計	194	178	185	207
	慶応大	10	6	10	13
	早稲田大	41	36	34	51
	中央大	33	39	38	41
	明治大	37	31	35	42
	法政大	28	26	28	26
	立教大	10	21	21	21
合	日本大	13	10	14	22
	東北学院大	10	6	3	10
	同志社大	2	0	4	1
	その他の	214	214	224	220
	小計	398	389	411	447
準大学		3	1	0	0
短大		5	2	3	1
各種学校		3	0	3	0
合計		603	567	660	610
就職		1	0	0	0

コール・マルシュナー福島演奏会 Part II について

●コール・マルシュナーについて

故三浦とみ子先生ご指導の下、昭和26年より4年連続東北代表として全日本合唱コンクール全国大会で活躍した福島高校合唱団第1期黄金時代の在京OBが中心となり、青春時代のハーモニーをもう一度と、「福島高校合唱団在京OB有志」と銘打って、平成11年初頭に東京で旗揚げをいたしました。

当初、定期的な活動といたしましては、メンバーの1人が所属する大学OB合唱団主催のオムニバス・コンサートに毎年参加する他、関東梅苑会総会の席上、歌声をご披露していましたが、設立10年目の平成20年(2008年)秋に東京において第1回演奏会を開催し、好評を博しました。その余勢をいかまして、翌、平成21年4月、福島市音楽堂大ホールにおきまして、念願の「ふるさと公演」を開催し、故郷の皆様方に大歓迎いただきました。更に昨年10月には、東京で第2回演奏会を開催し、ご来場の皆様方に大変喜んでいただきました。そして今回、もう一度「ふるさと公演」を開催する運びとなった次第です。

メンバーは現在20名で、平均年齢73歳の老齢者男声合唱団ではありますが、多くの皆様方から、「平均年齢70歳台とはとても思えない若々しい声」とのご好評をいただき、意気軒昂、大いに熟年パワーを発揮しているところです。

福島高校合唱団の現役の皆さんにも特別出演いただくことになっておりますので、是非ご来場賜りたくご案内申し上げます。

福島演奏会 Part II の概要

日 時：平成23年4月9日(土)14：00開演（13：30開場）

場 所：福島市音楽堂大ホール

賛助出演：福島メール・ハーモニー

特別出演：福島高校合唱団

チケット：1,000円（全席自由）

コール・マルシュナー演奏曲目：男声合唱組曲

「北国・第二」（丸山薫作詩、多田武彦作曲）、

ロバート・ショー合唱曲集、その他愛唱曲集



前回の公演の様子

連絡先：小野俊一(FAX 047-366-7627)

E-mail：syuny1939@camel.plala.or.jp



校友会誌（生徒会誌）「しのぶ草」について

本校の校友会誌（生徒会誌）「しのぶ草」は、現在、本校図書室において保存管理しておりますが、発行された全号は揃っておらず、また、保存されてはいるものの、状態が悪かったり、今後状態の悪化が予想されるものも多数ございますため、近年中にデジタル化して保存することを検討しております。つきましては、以下の号が欠けておりますので、まずは所在の情報をお寄せいただき、できれば寄贈、提供していただければと存じます。

なお、デジタル化の方法や取り扱い業者につきましても、何か情報がございましたら、ぜひお寄せいただきたいと思いますので、よろしくおねがいいたします。

1号	明治36年
2号	明治36年
3号	明治37年
4号	明治37年
5号	明治38年
6号	明治38年
7号	明治39年
9号	明治40年
11号	明治42年
12号	明治43年
39号	昭和11か12年
43号	昭和16年

事務局からのお知らせ

●事務局では今後「梅苑会報」の内容を充実させたいと考えております。同窓会に関するニュースや情報などがございましたら、下記の事務局までFAXか郵送でお知らせ下さい。

●お知り合いの方で「梅苑会報」が届いていない場合は、新しい住所を同封の同窓会員異動通知票に直接書き込んで郵送していただくか、またはFAXにて事務局までご連絡下さい。

発行所：福島県立福島高等学校同窓会
960-8002 福島県福島市森合町5-72
福島高校：024-535-2391
梅苑会館：024-536-9511
振替口座：仙台 23948

発行人：今井吉之

発行日：平成23年3月1日

印刷：(株)進堂印刷所

[題字は故若林名誉会長]

〒960-8002 福島県福島市森合町5-72
福島県立福島高等学校同窓会事務局 FAX024-535-2392